

現代中国におけるケアチェーンの形成による母親役割の代行と再編 —両端に位置する女性たちの育児分担をめぐるミクロな交渉から—

巖俊（京都大学文学研究科・博士後期課程）

1. 研究背景

グローバル化により、福祉の脆弱な先進国では、他国からの低賃金ケア労働者への需要が高まっている（上野 2011）。アジアではシンガポールにおいて、国境を越える「グローバル・ケアチェーン」（GCC）が早期に形成された（Hochschild 2000）。中国でも、農村部出稼ぎ女性が都市中間層女性のケア実践を支える形で国内ケアチェーンが形成されており（上野 2024）、再生産労働の分担と交渉の場となっている（Macdonald 2011）。本研究は、このケアチェーンの形成が現代中国における母親役割や育児実践にいかなる変容をもたらしているかを問い直す。

2. 先行研究

中国では計画経済期に女性の就労が国家近代化の象徴とされ、「働く母親」像が称揚された（呉 2009）。1980年代の改革開放後は「家庭化」と「子ども中心主義」が進行し（金 2013）、沿岸部では専業主婦化が進む（宮坂 2013、呉 2021）。近年では、科学的育児観や教育投資の高まりにより、「インテンシブ・マザーリング」が都市中間層で広がり（陶 2020、楊 2018）、農村部では「陪読ママ」への役割転換も見られる（呉ほか 2019）。こうした研究は母親役割の変化を明らかにしてきたが、多くは都市または農村のどちらかに焦点を絞り（鄭 2021；朴 2022）、ケアチェーンの両端に位置する女性の相互関係は十分に検討されていない。また、育児の外注化が私的領域の問題として還元されがちであり、都市部の母親の育児が農村出身のケア労働者に支えられているという事実を可視化する研究は限られている。既存のケアチェーン研究も、再生産労働の担い手の変遷や労働関係に焦点が偏っており（蘇 2016；李 2021；肖 2024）、母親役割分担の構造的影響には十分に迫っていない。

3. 研究目的

そこで、本研究は、都市中間層の母親と農村出稼ぎ女性ケア労働者という、中国国内のケアチェーンの両端において、ケアチェーンに関与する過程で双方の母親が行う育児分担における交渉に着目し、この動的なプロセスの中で、母親が育児において何を「代行可能」と考え、何が母親として「不可欠」とされるかについて、具体的な交渉や再編の過程を明らかにすることを目的とする。

4. 調査概要

2024年5～10月、農村出稼ぎ女性17名、都市部雇用者11名を対象に（合計28名）、参与観察とインタビューを実施。SNS「小红书」や家政会社で協力者を募集し、個別面接を行った。参与観察では家政会社での講義を通じ、育児知識の習得と活用実態を把握。インタビューでは雇用者との関係、出稼ぎ事情、母親役割の認識などを聞き取った。

5. 結論

まず、都市部女性は「質の高い寄り添い」に役割を集中させ、農村女性は「子どもを育て上げる」役割を固定化していた。前者は計画・管理を担う一方で、育児責任を自らに引き受ける傾向が強まり、後者は経済的支援を不可欠な母親役割と捉え、雇用者との摩擦を避ける傾向がみられた。また、他者による育児分担が容認される現代中国においても、母親役割の評価が子どもの成績や成功と強く結びつけられているため、母親は分担によってむしろ育児不安を高めている。ケアチェーンは母親役割を「分担化」させる一方で「集中化」させるという、矛盾する作用を同時に生み出していることが示された。

（キーワード：母親役割、外注化、ケアチェーン）

主な参考文献：■Macdonald, Cameron Lynne, 2011, *Shadow Mothers: Nannies, Au Pairs, and the Micropolitics of Mothering*, Univ of California Press. ■上野加代子, 2011, 『国境を越えるアジアの家事労働者：女性たちの生活戦略』, 世界思想社. ■宮坂靖子, 2013, 家族の情緒化と＜専業主母＞規範——専業主婦規範の中日比較『社会学評論』64(4):589-603.